



喜多埜

昭和の日

本年、平成十九年より四月二十九日の「みどりの日」は「昭和の日」と改められる事になりました。

この昭和の日は、元々は昭和天皇さまの天皇誕生日で、昭和六十四年の崩御の後、祝日の改正を経て昭和記念日となる方針でしたが、当時の世論や社会情勢を踏まえて、**自然のお好きだった昭和天皇さまにちなんで、「みどりの日」という名称で新たな祝日として定められました。**

しかし、昭和という時代に生きた方々からするとやはり昭和を否定するような風潮は悲しいものであり、昭和という時代が残した気風を平成の御代にも受け継いでほしいという願いがありました。その声は全国からあがり、その思いを受けて国会では平成十二年より名称の変更が議論され、ついに平成十七年の第百六十二回通常国会で改正案が成立しました。ちなみに「みどりの日」はどうなったのかというと、移動して五月四日の「国民の休日」が名称を変更し、「みどりの日」となり、初夏の新緑を象徴する日となりました。また、この日は「みどり」にちなんで、国立の有料公園は入場が無料になるそうです。

昭和という激動の時代については色々と意見の錯綜するところですが、この昭和の日からゴールデンウィークに入るといところも多く、国民の休日として先人の気風に思いを新たにし、緑豊かな我が国の自然を満喫したいものです。

四月の二十四節季

日本には春夏秋冬の四季がありますが、この四季を更に細分化したものが二十四節季で、一月に二回づつあります。

雑祭や七夕に代表される五節句は太陰暦（旧暦）をもとにしており、現在の暦とは季節がずれ、雑祭に桃は咲かず梅が咲くという変な事になっていますが、二十四節季は太陽の運行から編み出されたもので、太陽暦を元にしており、現在の暦とも合致します。この四月には清明（せいめい）と、穀雨（こくう）という名称の二十四節季があります。

清明とは四月五日頃で、お花見、新芽の時期でもある事から、その名の通り清く明るい季節とされます。中国ではこの日は先祖を敬う清明節と呼び、お墓参りをする日とされています。また、この時期に摘まれた茶葉は良い香りがするとされ、中国では珍重されます。穀雨とは四月二十日頃で、田畑の用意が整い、しとしとと春雨の降る季節とされます。

この雨はまだ新芽の出たばかりの穀物の生長を助ける事から、「春雨降りて百穀を生化すればなり」と表現されます。ちなみにこの季節の終盤が八十八夜であり、日本ではこの時期の茶葉が最高級とされます。四月は御茶の恵みの深い月ともいえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

